

然別湖湖底線路 (北海道河東郡鹿追町)



写真 エゾナキウサギ

然別湖^{しかりべつこ}は、北海道のほぼ真ん中、大雪山国立公園内にある。鹿追町北部と上士幌町南西部にまたがり、約6万年から1万年前の火山活動で、川がせき止められて出来た堰止湖^{せきとめこ}である。そのため周囲約13.8kmの湖岸は複雑に入り組み、9つの湾を形成している。また北海道の中では標高約810mと、一番高い場所にあることから、「天空の湖」と呼ばれ国内でも有数の透明度を誇る。湖の南西部にある「湖底線路(表紙写真)」は、その美しく透明な湖底に向かって沈んでゆく様子を見せる。湖が凍ってしまう冬に向け、湖の遊覧船を陸にあげる引き上げ用のレールとして活躍している。澄んだ青空と青い湖にどこまでも続くように見える光景は幻想的である。

然別湖がある鹿追町には、大地の恵みを美味しく体験出来る「とかち鹿追ジオパーク」がある。国内のジオパーク^{※1}で唯一「凍れ^{しほ}」^{※2}をテーマに掲げ、凍れが作りだした地形や生態系、寒冷地に暮らす生活の知恵や産業、イベントなど、四季を通じて楽しめる。火山活動によって生まれた然別湖や周辺の風穴地帯には、日本最古の氷を含む永久凍土がある。冷たく湿った環境がエゾナキウサギ(写真)をはじめとする希少な生態系を育てている。

※1) ジオパーク：「大地の公園」を意味し、学術的に価値のある地質遺産を保全し、それを教育や観光など地域活性化にもつなげる取り組み。その活動はSDGsとの親和性が高い。

※2) 凍れ(しほ)：北海道・東北地方の方言で「冬の厳しい寒気」という意味

<参考>

とかち鹿追ジオパーク

<https://geopark.jp/geopark/tokachi-shikaoi/>

北海道公式観光サイト

https://www.visit-hokkaido.jp/spot/detail_10451.html

■アクセス:

- JR帯広駅からバスで約100分、JR新得駅からバスで約70分
- 鹿追町から国道274号線と道道85号線を経由、車で約35分

(表紙の写真)

然別湖湖底線路

場所：北海道河東郡鹿追町

